

平成22年度

論語の学校

~RONGO ACADEMIA~

11月27日(土)

13:00~17:00

二松學舎大学 九段1号館 中洲記念講堂

入場無料

渋沢栄一の

『論語と算盤』の現代意義

~原点から考える新しい資本主義と企業経営~



渋澤 健氏

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社
代表取締役CEO、
コモンズ投信株式会社 会長

宋代の知識人と『論語』

田中正樹氏

本学文学部教授

《関連企画》

論語入門:本学文学部教授 牧角悦子

素読実践:本学名誉教授 石川忠久

【お問い合わせ】 E-mail:rongogak@nishogakusha-u.ac.jp

TEL:03-3261-1298 (平日9:30~16:30)

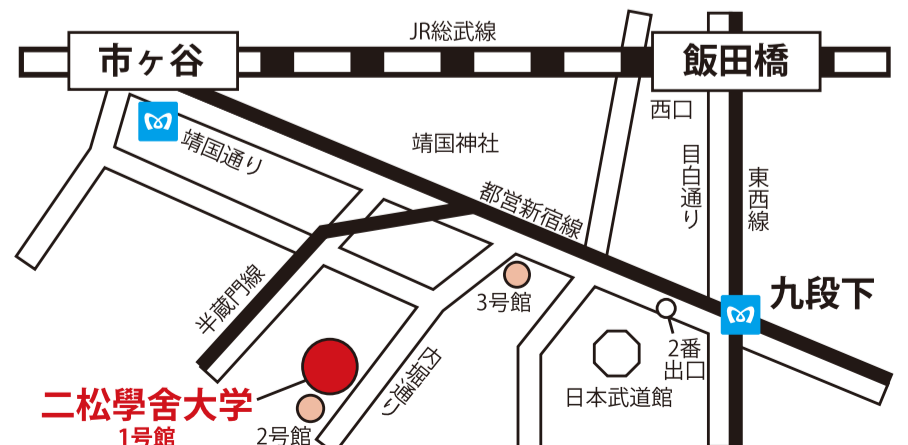
【お申込み方法】 <http://www.nishogakusha-u.ac.jp/>

(詳しくは、本学ホームページをご覧ください。)

NISHOGAKUSHA
都心の九段で4年間
二松學舎大学

主催: 学校法人二松學舎 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
後援: 文部科学省・東京都教育委員会・千葉県教育委員会・埼玉県教育委員会
千代田区・財団法人 斯文会・漢字文化振興会・全国漢文教育学会
読売新聞社・毎日新聞社・産業経済新聞社・日本経済新聞社
二松學舎大学後援会・二松學舎松苓会
協賛: 二松学舎サービス株式会社

○地下鉄 東西線・半蔵門線・新宿線 「九段下」 駅下車、2番出口より徒歩8分
○JR 「市ヶ谷」「飯田橋」 駅下車、徒歩15分



※会場には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮ください。

講演者紹介

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役CEO
コモンス投信株式会社 会長

澁澤 健(しぶさわ・けん)

『論語と算盤』の現代意義
～原点から考える新しい資本主義と企業経営～

講義内容

澁澤栄一が説いていた『論語と算盤』とは、現代的にいうと「持続可能性」であると解釈できる。レバレッジなどを活かした算盤の計算が長けていれば、自分の懐は一時的に暖まるかもしれないが、それだけに頼ってしまうと、自身の幸福が継続されないかもしれない。

一方、自分は論語読みであると鼻を高くしても、実は何事も始まらない。道徳(論語)と経済(道徳)が車の両輪になることによって、持続性が可能になるのだ。

「正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ、ここにおいて論語と算盤という懸け離れたものを一致せしめる事が今日の緊要の務めと自分は考えているのである。」

澁澤栄一の想いは、いまの資本主義および企業経営でも十分に通用するはずだ。

プロフィール

1961年生まれ、69年、父の転勤で渡米。83年テキサス大学 BS Chemical Engineering 卒業。84年、(財)日本国際交流センター入社。87年UCLA大学MBA経営大学院卒業。87年ファースト・ボストン証券会社(NY)入社、外国債券を担当。88年JPモルガン銀行(東京)を経て、92年JPモルガン証券会社(東京)入社、国債を担当。94年、ゴールドマン・サックス証券会社(東京)入社、国内株式・デリバティブを担当。96年、ムーア・キャピタル・マネジメント(NY)入社、アジア時間帯トレーディングを担当、97年、東京駐在員事務所設立。2001年、シブサワ・アンド・カンパニー株式会社を創業し、代表取締役役に就任、現在に至る。2007年、コモンス株式会社を創業し代表取締役就任。2008年コモンス投信へ改名し、会長に就任。

本学文学部教授 **田中 正樹**(たなか・まさき)

宋代の知識人と『論語』

講義内容

宋代の『論語』解釈と言えば、朱熹の『論語集注』がすぐに思い浮かびますが、他にも様々な知識人たちが独自の考えを持っていたことは、本学の教授でもいらした松川健二先生の御研究でよく知られています。本公演では、宋代の知識人と『論語』との

関わりについて、朱子学とは異なる、あるいは朱子学以前の事例について考えてみたいと思います。

プロフィール

1961年生まれ。86年、東北大学文学部哲学科卒業。91年、同大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。山形女子短期大学助教授、山形短期大学教授を経て、2005年、二松學舎大学文学部助教授に就任。現在、二松學舎大学文学部教授。専門は中国思想、中国美学。